# 東アジア・フォーラム (EAF)

第7回年次大会

報告書

2009年10月

東アジア共同体評議会

# 目 次

## 第Ⅰ部:概括報告(東アジア共同体評議会事務局)

1.	. 概要1
2	. 議論の要旨1
	(1) 開会式
	(2) 本会議セッション12
	(3) 分科会 1 (政府)
	(4) 分科会 2 (産業)
	(5) 分科会 3 (学界)
	(6) 本会議セッション26
	(7) 閉会式6
	別添1:第7回「東アジア・フォーラムプログラム7
	別添2:第7回「東アジア・フォーラム」出席者リスト10
	別添3:"Concept Paper for the Revitalization of the East Asia Forum"
笋π	部:所感報告(日本代表団)
-	- ア・アル
2.	. 進藤榮一団員18
3.	. 廣野良吉団員19
2.	. 矢野卓也団員

## まえがき

この報告書は、2009年9月1日~9月2日の2日間にわたり韓国・ソウルで開催された「東アジア・フォーラム(EAF)」の第7回年次大会の議論を取りまとめたものである。

EAFは、2002年のAPT首脳会議で設置が決定されたAPT各国の産官学代表による年1回の意見交換会である。EAFは、第1回が2003年にソウルで開催されて以来、2004年にクアラルンプール、2005年に北京、2006年にカンボジア・シエムリアップ、2007年に東京、2008年にラオス・ルアンプラバンの6つの大会を経て、今回はその第7回となった。当評議会は、EAFの日本代表(ナショナル・フォーカル・ポイント)である日本国際フォーラムより業務委託を受けて、今次大会に日本代表団を派遣した。

この報告書は、EAFソウル大会の内容を、当評議会議員を中心とする関係者に報告 することを目的として、作成されたものである。ご参考になれば幸いである。

> 2009年10月 東アジア共同体評議会 議 長 伊藤 憲一

## 第Ⅰ部:概括報告(東アジア共同体評議会事務局)

## 1. 概要

さる9月1日(火)~2日(水)の2日間にわたり韓国・ソウルの Grand Hyatt Seoul を会場として「東アジア・フォーラム(EAF)」の第7回大会が開催された。EAFとは、ASEAN+3(APT)首脳会議の要請により「東アジア・ヴィジョン・グループ(EAVG)」と「東アジア・スタディ・グループ(EASG)」が提出した報告書の中で提案された国際組織であり、2002年のAPT首脳会議で設置が決定され、2003年に韓国・ソウルで第1回が開催されて以来、毎年開催されているAPT各国の産官学代表の年1回の意見交換会である。トラック1.5(半官半民)の立場から、東アジア地域統合の動きに対して知的支援を提供している。

今回の会合は9月1日のKwon Jong Rak 韓国外交通商部第1次官主催の歓迎夕食会で幕を開け、翌2日は、「東アジア共同体構築の加速に向けて(Accelerating the Integration of East Asian Community Building)」の全体テーマのもと、午前の「本会議セッション1」が開催され、その後「産」、「官」、「学」の3つの分科会が同時並行で開催された後、「本会議セッション2」で上記3つの分科会の議論が総括され、最後にYong-joon Lee 韓国外交通商部次官補の閉会挨拶で幕を閉じた(プログラムについては別添1を参照)。

ASEAN+3の13カ国およびASEAN事務局から総勢65名の産官学の代表者が 出席し、日本からは、鹿取克章ASEAN担当大使など7名が出席した。

EAFの運営にあたっては、各国ごとにその「ナショナル・フォーカル・ポイント(NFP)」が設置されているが、当評議会は日本のNFPである日本国際フォーラムから委託を受けて実質的に日本を代表する活動をしており、当評議会から伊藤憲一議長(日本国際フォーラム理事長)、小西正樹当評議会常任副議長、進藤榮一副議長(筑波大学名誉教授)、廣野良吉副議長(成蹊大学名誉教授)、班目哲司日本郵船渉外グループ長、矢野卓也当評議会事務局長が出席した(各国出席者については別添2を参照)。

なお、来年の次回会合については、ベトナムで開催されることとなった。

## 2. 議論の要旨

## (1) 開会式

冒頭、Kwon Jong Rak 韓国外交通商部第1次官より「韓国が『新しいアジアのイニシアティブ』をとることを改めて表明したい。韓国は、東アジア共同体構築に積極的に関与し、グローバルな経済危機、気候変動、開発ギャップ、食料・エネルギー安全保障などの多様な問題への取り組みに関する地域協力を推進したい。特に韓国政府としては、『低炭素社会構築ならびに環境保全』を目指し、北朝鮮の核問題に関しては、6者協議をつうじて平和的解決に重点をおきたい。また、EAFに『サイバー事務局』を設置するなど、EAFの再活性化も提案したい」との開幕挨拶があった。

## (2) 本会議セッション1

タイ、中国、日本、ラオス、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、ベトナム、ASEAN事務局の代表からそれぞれつぎのような国別報告が行われた。

## (イ) Apichart Chinwanno タイ外務省外務副次官

最近の東アジア地域協力における主な進展として「ASEAN憲章」の発効などが 挙げられる。今後の課題としては、「ASEAN人権メカニズム」の設立の他、経済分 野における「アジア債権市場育成イニシアティブ」、「チェンマイ・イニシアティブの マルチ化」などを通じた協力が重要だ。また、東アジアFTAの締結を本格的に検討 していくべきであり、また、ASEAN+3各国の首脳は、食料安全保障、エネルギー安全保障について高い関心を払うべきだ。

## (口) Peixin Zha 中国全国人民代表大会外交委員会副部長

世界金融危機は、保護主義の結果引き起こされたものである。この危機を克服するべく、安定した市場経済を維持するために各国の協力を強化していく必要がある。今後は、「チェンマイ・イニシアティブのマルチ化」、「アジア債権市場育成イニシアティブ」を進展させ、さらに文化協力、人材交流などを進めていくべきである。

## (ハ) 鹿取克章 外務省外ASEAN担当特命全権大使

日本としては、東アジア・スタディ・グループの提言に基づき、東アジア共同体の構築を引き続き支持していきたい。東アジアが直面するグローバルな問題に対応するためには、協力の枠をEAS加盟国に広げることが効果的ではないか。また、東アジア地域における平和と安定を確保するためには、北朝鮮の核開発問題を解決することが重要である。

#### (二) Bounkeut Sangsomsak ラオス外務副大臣

EAFの再活性化のためには、EAFの「アクション・プラン」の作成、さらには東アジア共同体構築へのロード・マップの策定が必要である。今後、EAFはASE AN+3サミットなどに直接、政策提言を行っていくべきである。

## (ホ) Dato' Harun Ismail ブルネイ駐韓国大使

東アジアにおける共同体構築を進展させるためには、政府間協力だけでなく、各国の市民社会、プライベート・セクターの参加が必要である。その際、ASEANは中心的な役割を担っていくべきである。

#### (へ) Kao Kim Horn カンボジア外務国際協力省長官

東アジア共同体構築の達成期限として、2010年から2020年あたりの時期を提案したい。2010年は、国連で、統合した国際開発目標として打ち出された「ミレニアム開発目標」達成の期限でもある。こうした動きとあわせて、東アジア共同体構築自体の具体的な達成目標を掲げるべきである。EAFの再活性化に関しては、広く各界から、より高位の役職者の参加者を募るべきであり、またトラック2であるN

EATとバックツーバックで開催するべきである。

## (ト) Artauli R.M.P. Tobing インドネシア外務長官

グローバル金融危機、北朝鮮の核開発問題、非伝統的安全保障分野の脅威など、この地域は多くの危機に見舞われている。こうした危機を克服していくには、ASEANと共に東アジア各国の協力の拡大が必要であり、ひいては東アジア地域としての共通アイデンティティの確立が必要である。実際には、文化、宗教上の相互理解の不足、ナショナリズムの台頭などにより、社会、経済発展の地域格差が広がっている。教育、文化交流の増進を行い、発展格差のギャップを狭める努力が必要である。

## (チ) Dato' Ramlan Ibrahim マレーシア駐韓国大使

ASEAN+3の枠組みの下に、すでに50以上の協力メカニズムがあり、今後もこうした協力体制を維持していくべきである。また、今後は、東アジアのアイデンティティ確立の努力を行っていくことが必要であり、EAFに関しては、これまでより高位の参加者を加えて協議していくことが重要である。

## (リ) Maung Myint ミャンマー外務副大臣

東アジア共同体構築には、ヨーロッパにおける地域統合をモデルとするのではなく、東アジアの現状に即した価値を基礎に進展させていくべきである。今後ASEAN+3は、ASEAN諸国の人材育成、エネルギー、教育、自然災害管理の発展、貧困の根絶への援助を行っていく必要がある。

## (ヌ) Luis T. Cruze フィリピン駐韓国大使

東アジア共同体構築のプロセスを加速させていかなければならないが、これに参加 すべきなのは、ASEAN+3なのか+6なのか疑問をもっている。いずれにせよ、 東アジア共同体は、平和と繁栄そして民主主義に寄与するものでなくてはならない。

#### (ル) Bilahari Kausika シンガポール外務省第2事務次官

東アジア共同体構築に向けて、期限を設定するのではなく、現在の状況を現実的に評価することが必要である。特に共同体構築には、市場の変化を考慮に入れる必要がある。過去10年をみても、経済成長が、地域統合を引き起こしてきたといえる。それゆえ、地域経済の発展を今後も持続させていくことが必要である。

#### (ヲ)Duc Binh Tran ベトナム外務省審議官

東アジアの協力をより促進していかなくてはならい。特に「東アジア協力に関する 第2共同声明」の履行、金融協力は重要である。今後は、東アジアのFTAの構築に 努めるべきである。

## (ワ) Sayakane Sisouvong ASEAN事務局次長

東アジア共同体構築は、もっぱら政府間で推進されるべきではなく、市場も含めた包括的なプロセスでなくてはならない。その意味でも「産」、「官」、「学」を結び付けるEAFの役割は大きい。また、ASEAN+3各国は、今後、CLMV諸国の人材育成などに取り組んでいくべきである。

## (3) 分科会1(政府)

分科会 1 (政府) では、「東アジア統合におけるEAFの役割」「EAFの再活性化」を議題とし、Bounkeut Sangsomsak ラオス外務副大臣を議長として、Kwon Jong Rak 韓国外交通商部第 1 次官、Duc Binh Tran ベトナム外務省審議官、Apichart Chinwanno タイ外務省外務副次官、Luis T. Cruze フィリピン駐韓国大使、Dato' Ramlan Ibrahim マレーシア駐韓国大使の 5 人のパネリストより基調報告がなされた。なお、本分科会の審議資料となった"Concept Paper for the Revitalization of the East Asia Forum"は別添3のとおりである。

基調報告のなかで、(イ) Kwon Jong Rak 韓国外交通商部第1次官は、「EAFの役割 強化のためEAF大会の結果をフォロー・アップし、その活動のレビューを毎会合の議 題として取り上げることを提案する。今後のEAFについては、幅広い社会交流の場と して、人的ネットワークを築いていくべきである。またEAFのサイバー事務局を設立 し、各国が持ち回りで1年間担当し、EAFの予定、計画、コメントなどウェブ・サイ トに掲載していくべきである」(ロ) Duc Binh Tran ベトナム外務省審議官は、「EAF のウェブ・サイトは必要であるが、効率性の観点から、それを1ヶ国で維持、管理する ことを提案する。また、EAFの役割強化のためEAF大会の結果をフォロー・アップ し、その活動のレビューを毎会合の議題として取り上げるのはどうか」、(ハ) Apichart Chinwanno タイ外務省外務副次官は、「EAFは、トラック1.5の機構として有用で あり、今後はメディアを一般大衆との連結点として関与させていければ地域統合形成に 役立つだろう。EAFにサイバー事務局を設立することについては、事務局を各国持ち 回りで維持するのか、1カ所で行うのかの検討が必要である」、(二) Luis T. Cruze フィ リピン駐韓国大使は、「EAFとして、今後東アジア共同体構築をいかにして形成してい くべきなのか、議論をつづけていくべきである」、(ホ) Dato'Ramlan Ibrahim マレーシ ア駐韓国大使は、「EAFは産官学の異なる見方についての知的インプットを行うことに より信頼醸成の役割を果たしており、今後パブリック・ディプロマシーのための新しい アイデアを試す場所として活用していくべきである。また、NGOの参加を認め、開か れた、透明かつ前向きな共同研究フォーラムとして活用していくべきである」と述べた。 これに対して38名の参加者から、EAFへのマス・メディアの開放、首脳レベルのE AFへの参加の検討、EAFとNEATの差異化の必要性などについて指摘がなされた。

## (4) 分科会2 (産業)

分科会 2 (産業) では、「グローバル金融危機と東アジア経済協力の深化」「EAFの再活性化」を議題とし、Somkiat Anuras タイ商工会議所副会頭を議長として、班目哲司日本郵船渉外グループ長、Nay Aye ミャンマー中央銀行副総裁、Onesy Boutsivongsakdラオス駐韓国大使、Kyung-tae Lee 韓国国際貿易協会会長の4人のパネリストより基調報告がなされた。

基調報告のなかで、(イ) 班目哲司日本郵船渉外グループ長は、「東アジアは新たな成

長モデルを形成すべき時期にきている。従来の対欧米貿易だけに依存した成長戦略は取 れないが、アジア域内交易だけでは過剰生産力を消化できない。世界経済のブロック化 を回避しつつアジア域内交易と対欧米貿易の二つを柱にすえた成長モデルを追求すべき である。域内の安定した通貨政策、域内共通のビジネス関連法制度の整備などに加え、 域内各国の特性を活かした相互補完的な協力領域を設定し、域内競争力の底上げを狙う べきだ。例えば、世界最大のセメント生産国(13億トン)である中国が日本の効率的 なセメント生産技術を採用すれば、エネルギー使用効率が20%向上し、使用エネルギ ーは石炭換算で1億トン削減でき、CO2は4億トン減らすことができる。他方、この 地域が当面直面する課題は、資源の確保、域内各国間の信頼関係の醸成、環境に配慮し た開発目標の設定等である」、(ロ) Nay Aye ミャンマー中央銀行副総裁は、「東アジアの 先進諸国は共同して、域内の経済格差是正のための開発プログラムを編み出すべきだ。 また、チェンマイ・イニシアティブといった既存の経済協力メカニズムはさらに拡大促 進される必要があるが、金融市場発展のための施策は、域内各国の国力に応じて慎重に 導入されるべきであり、各国経済を圧迫させるものであってはならない」、(ハ)Onesy Boutsivongsakd ラオス駐韓国大使は、「東アジアにおける経済統合には、各国の開発ギ ャップの是正、エネルギー効率化の促進、民間セクターのキャパシティー・ビルディン グ、技術移転を通じた環境問題への取り組みなどが必要である」、(ニ) Kyung-tae Lee 韓 国国際貿易協会会長は「EAFの再活性化のための方策の一つとして、『東アジア産業委 員会(EABC)』委員をEAFに招聘し、東アジア経済統合に向けた掘り下げた議論を 促進させることが考えられる。また、産業分科会の議論を政府分科会に効果的に伝達す ることも必要だ」と述べた。これに対して11名の参加者から、域内各国の国内経済の 構造改革、FTAのマルチ化、中小企業への融資促進などについて指摘がなされた。

#### (5) 分科会3(学界)

分科会 3 (学界) では、「東アジア統合におけるEAFの役割」、「EAFの再活性化」を議題とし、John Wong シンガポール国立大学東アジア研究所研究主幹を議長として、Yang Peou カンボジア国際問題研究所研究員、Singgih Tri Sulistiyono インドネシア・ディポネゴロ大学アジア研究所教授、Yaqing Qin 中国外交学院副学長の 3 人のパネリストより基調報告がなされた。

基調報告のなかで、(イ) Yang Peou カンボジア国際問題研究所研究員は、「東アジアには多様な文化が存在し、寛容の精神をもって相互理解を促進すべきだ。他方、この文化の多様性は、東アジアの地域統合の障害とすべきではない。むしろ、多様性のなかの統一に向けた域内共通のアイデンティティ構築を目指すべきであろう」、(ロ) Singgih Tri Sulistiyono インドネシア・ディポネゴロ大学アジア研究所教授は、「『東アジア共同体大学』の設置を提案したい。この大学では東アジア各国が、文化、芸術、科学技術等の分野においてより競争力を高めるための共同研究のアリーナとなるべきものだ。」、(ハ) Yaqing Qin 中国外交学院副学長は、「APT13カ国のシンクタンクで構成される東アジ

ア・シンクタンク・ネットワーク(NEAT)で、韓国が主催する『文化交流作業部会(WG)』が、伝統的文化の保護に加え、東アジア地域に共通の大衆文化を普及、東アジア共通の文化政策の立ち上げなどが提言されている。EAFとしてもこの提言に沿った域内協力を支持していくべきだ」と述べた。これに対して16名の参加者から、域内共通の奨学金制度の設立、文化ツーリズムの促進などについて指摘がなされた。

#### (6) 本会議セッション2

各分科会の議長より、それぞれにおける議論の総括がなされた。

## (7) 閉会式

Yong-joon Lee 韓国外交通商部次官補より、「韓国政府としては、引き続き東アジア共同体構築に積極的に関与していきたい。EAFはASEAN+3の『産』、『官』、『学』の代表が一斉に集う貴重な機会であり、その意味でも東アジアの地域統合における重要な役割を担っている。今後とも関係各国のEAFのいっそうの充実にむけた協力に期待したい」との閉幕挨拶があった。

別添1:「第7回『東アジア・フォーラム』プログラム」

別添2:「第7回『東アジア・フォーラム』出席者リスト」

別添3: "Concept Paper for the Revitalization of the East Asia Forum"

As of September 2, 2009

## The 7<sup>th</sup> East Asia Forum 1-2 September 2009, Grand Hyatt Seoul Seoul, Republic of Korea

## Programme of Activities

## September 1 (Tuesday)

Afternoon

Arrival of Delegates

19:00-21:00

Welcoming Dinner

Hosted by H.E. Mr. Kwon Jong-rak Vice Minister of Foreign Affairs and Trade

Venue: Regency Room (1F)
Attire: Smart Casual
Attendance: All Delegates

## September 2 (Wednesday)

08:30-09:00

Registration Venue: Foyer (1F)

09:00-11:20

Opening Ceremony/ Plenary Session

- Photo Session

Keynote Speech (10 min.)
 by H.E. Mr. Kwon Jong-rak,

Vice Minister of Foreign Affairs and Trade - Statements by all representatives (7 min.)

: Thailand, China, Japan, Lao PDR, Brunei, Cambodia, Indonesia, Malaysia, Myanmar, the Philippines, Singapore, Viet Nam, Secretarlat

- Open for discussion

Venue: Regency Room(1F)

Attire: Lounge Suit
Attendance: All Delegates

11:20-11:40

Coffee Break

## 11:40-12:50

## Concurrent Sessions of Three W/Gs

## Session 1(Government Circle)

- Topic: ① "Role of EAF for the Integration of East Asia"
  - ② "Revitalization of the EAF"
- Moderator: Representative of Lao PDR
- Panel Speakers
  - : ROK, Viet Nam, Thailand, the Philippines, Malaysia
- Open for discussion

Venue: Namsan I (2F) Attire: Lounge Suit

## Session 2(Academy Circle)

- Topic: ① "Strengthening of Social and Cultural Cooperation in East Asia"
  - ② "Revitalization of the EAF"
- Moderator: Representative of Singapore
- Panel Speakers
  - : Cambodia, Indonesia, China
- Open for discussion

Venue: Regency Room (1F)

Attire: Lounge Suit

## Session 3 (Business Circle)

- Topic: ① "Global Financial Crisis and Deepening of the Economic Cooperation in East Asia"
  - ② "Revitalization of the EAF"
- Moderator: Representative of Thailand
- Panel Speakers
  - : Japan, Myanmar, Lao PDR, ROK
- Open for discussion

<u>Venue</u>: Namsan V (2F) <u>Attire</u>: Lounge Suit

13:00-14:30

Lunch

<u>Venue</u>: Namsan III (2F) <u>Attire</u>: Lounge Suit

14:30-15:45	Concurrent Sessions of Three W/Gs(resumed)
15:45-16:00	Coffee Break
16:00-17:45	Plenary Session (resumed)/Closing Ceremony - Briefing by representatives of each W/Gs - Open for discussion - Closing Remarks
	Venue: regency Room (1F) Attire: Lounge Suit

## September 3 (Thursday)

Departure of the Representative

# Participants for the 7th EAR

# (Plus 3 Countries)

☐ Korea		3	
- Jong-rak 1	Kwon	Vice Minister	MOFAT
- Kyung-tae	Lee	President	Institute for International Trade/ Korea International Trade Association
- Yoon-hwan	Shin	Professor	Seogang University
- Yong-joon	Lee	Deputy Minister	MOFAT
- Young-che	d Cha	Deputy Director -General	MOFAT
☐ China			
- Peixin Zha		Vice Chairman	Foreign Affairs Committee of National People's Congress of China
- Yongchun	Wang	Second Secretary	Asian Affairs Department/ Ministry of Foreign Affairs
- Liming Wa	ng	Staff	Foreign Affairs Committee of National People's Congress of China
- Yauli Wan	g·	Third Secretary	Embassy of China
- Yaqing Qi	n	Executive Vice-President	China Foreign Affairs University
- Ling Wei		Associate Professor	China Foreign Affairs University
-Lin Ji		Director	China Council for the Promotion of International Trade (CCPIT)
- Bing Han		Regional Manager	China Council for the Promotion of International Trade (CCPIT)

□ Japan			
- Yoshinori Katori	Ambassador for ASEAN	Ministry of Foreign Affairs	
- Kenichi Ito	President	The Japan Forum on International Relations Inc./ The Council on East Asian Community	
- Eiichi Shindo	Professor Emeritus	Tsukuba University	
- Ryokichi Hirono	Professor Emeritus	Seikei University	
- Takuya Yano	Senior Research Fellow	The Japan Forum on International Relations Inc.	
- Masaki Konishi	Acting Executive Director	The Japan Forum on International Relations Inc.	
- Tetsuji Madarame	GM	Nippon Yusen Kabushiki Kaisha (NYK)	
(ASEAN)			
☐ Brunei			
- Dato' Harun Ismail	Ambassador	Ministry of Foreign Affairs	
- Fadzliwati Mohiddin	Lecturer	University Brunei Darussalam	
☐ Cambodia			
- Kim HournKao	Secretary of State	Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation	
- Socheath Nguon	Counsellor	Embassy of Cambodia	
- Rithi Pich	SEOM Leader	Ministry of Commerce	
- Yang Peou	Researcher	International Relations Institute of Cambodia	

☐ Indonesia		
~ Artauli R.M.P. Tobing	Director-General	Department of Foreign Affairs
- Agus Sardjana	Director	Department of Foreign Affairs
- Singgih Tri Sulistiyono	Professor	Center for Asian Studies of Diponegoro University
- Chilman Arisman	Director	Department of Foreign Affairs
- Esther Rajagukguk	Staff	Office of the Minister
☐ Lao PDR		
- Bounkeut Sangsomsak	Vice Minister	Ministry of Foreign Affairs
- Onesy Boutsivongsakd	Vice President	Lao National Chamber of Commerce and Industry
- Phanthaly Chantharathip	Senior Officer	Ministry of Foreign Affairs
- Vidavone Keobounkhong	Desk Officer	Institute for Foreign Affairs, Ministry of Foreign Affairs
🗖 Malaysia		
- Dato' Ramlan Ibrahim	Ambassador	Embassy of Malaysia
- Mohamed Jawhar	Chairman and CEO	ISIS Malaysia
☐ Myanmar		
- Maung Myint	Deputy Minister	Ministry of Foreign Affairs
- Nay Aye	Deputy Governor	Central Bank of Myanmar
- Tint Swai	Deputy Director- General	ASEAN Affairs Department/ Ministry of Foreign Affairs
- Maung Wai	Deputy Director- General	Consular & Legal Affairs Department
- Mie Mie Khaing	Deputy Director	Department of Archaeology, National Museum and Library
- Soe Yar Zar	Counsellor	Embassy of Myanmar

☐ Philippines		
- Luis T. Cruze	Ambassador	Embassy of Philippines
- Joseph Yap	President	Philippines Institute for Development Studies (PIDS)
- Jose Concepcion, Jr.	Chairman	EABC Philippines ASEAN Business Advisory Council
☐ Singapore		
- Bilahari Kausikan	2 Permanent Secreta	ry Ministry of Foreign Affairs
- Dominic Goh	Deputy Director	Ministry of Foreign Affairs
- Tuck Wai Loh	Deputy Director	Ministry of Foreign Affairs
- Jonathan Liew	Desk Officer	Ministry of Foreign Affairs
- John Wong	Professor Emeritus	East Asia Institute
- Lye Liang Fook	Research Assistant	East Asia Institute
☐ Thailand		
- Apichart Chinwanno	Deputy Permanent Secretary	Department of ASEAN Affairs/ Ministry of Foreign Affairs
- Somkiat Anuras	Vice President	Thai Chamber of Commerce
- Piniti Ratananukul	Deputy Secretary -General	Office of Higher Education Commission/ Ministry of Education
- Ratsuda Poolsuk	Program Officer	ASEAN University Network
- Paisan Rupanichkij	Counsellor	Department of ASEAN Affairs/ Ministry of Foreign Affairs
- Lada Phumas	First Secretary	Department of ASEAN Affairs/ Ministry of Foreign Affairs
- Tanawan Santimataneedol	International Coordinator	Board of Trade of Thailand

Viet Nam		
- Duc Binh Tran	Deputy Director -General	Department of ASEAN Affairs/ Ministry of Foreign Affairs
- Minh Giang Phan	Official	Department of ASEAN Affairs/ Ministry of Foreign Affairs
- Thi Nhung Tran	Head	Institute for Northeast Asian Studies, Viet Nam
- Minh Tuan Nguyen	Deputy Director -General	Viet Nam Chamber of Commerce and Industry
ASEAN Secretariat		
- Sayakane Sisouvong	Deputy Secretary -General	ASEAN Secretariat
- Yunita Dini	Technical Assistant	ASEAN Secretariat

## Concept Paper for the Revitalization of the East Asia Forum

## I. Background

- 1. The East Asia Forum (EAF) was established on the recommendation of the Final Report of the East Asia Study Group (EASG) that was approved by the leaders at the 6<sup>th</sup> ASEAN+3 Summit held in Cambodia in November 2002 with an aim to maintaining the momentum for East Asian cooperation towards building an East Asian community and consolidating the ASEAN Plus Three cooperation process.
- 2. Since its inaugural meeting in the Republic of Korea in December 2003, the EAF has held five meetings. During the past 5 years, the EAF has served as the useful channel for representatives from the governmental, academic, and business circles of the ASEAN member countries, China, Japan, and Korea to exchange diverse perspectives and constructive ideas on regional cooperation and the East Asian community building.
- 3. On the occasion of the 7<sup>th</sup> EAF to be held on 1-2 September 2009 in Seoul where the EAF was launched, it is timely and appropriate for us to review the past accomplishments of the Forum and exchange views and ideas on ways to further develop it. Thus, as the basis for discussions at the 7<sup>th</sup> EAF, this paper contains practical measures to revitalize the East Asia Forum.

#### II. Suggested Measures

#### Meeting Structure

• The annual EAF meeting will consist of 2 plenary sessions and 3 W/G(government, business, academia) meetings in order to facilitate in-depth discussions. In the first plenary session, the three representatives of the governmental, business, and academic circles from each participating country will exchange general ideas on the main theme. The theme will be discussed more specifically in the three W/G meetings of each circle based on background and professional experiences of the respective participants. The discussions made in each W/G will be briefed in the resumed plenary session where there will be further discussions along with a wrap-up among all the participants.

## 5. Agenda

"Review of EAF activities and its future direction" will be included in the agenda of every annual EAF meeting in order to secure the continuity of the discussions. Under this agenda, a follow-up of the previous EAF meeting and preparations for the next meeting will be discussed.

## 6. Cyber Secretariat

■ The EAF will set up a website as a "Cyber Secretariat" to manage the Forum's activities including results from the previous EAF meetings, implementation of the follow-up measures, and preparations for next meetings. Each hosting country will operate the cyber secretariat for one year. The operationship of a cyber secretariat will be handed over every year to the hosting country of the EAF meeting of that year.

## 7. Cooperation with Track II

- In order to strengthen ties between the governmental sector and the Track II mechanism, the EAF will be held back-to-back with the Track II meetings such as NEAT and NEAS as much as practicable. The result of annual conferences of the Track II meetings will be briefed to the EAF.
- If Track II agrees, it may be possible to post the results of the Track II meetings on the EAF Cyber Secretariat.

#### 8. Funding

• With the completion of the ASEAN Plus Three Cooperation Fund in April 2009 with an initial amount of US\$ 3 million, the holding of the EAF can be fully or partially funded by the APTCF upon agreement by all the APT countries. 第 II 部: 所感報告

## 1. 伊藤憲一団長

2009年9月1日から2日までソウルで開催された標記大会に出席した所感は、つぎのとおり。

EAFとは、ASEAN+3(APT)首脳会議の要請により「東アジア・ヴィジョン・グループ(EAVG)」と「東アジア・スタディ・グループ(EASG)」が提出した報告書の中で提案された国際組織であり、2002年のAPT首脳会議で設置が決定され、2003年に韓国・ソウルで第1回が開催されて以来、毎年各国持ち回りで開催されているAPT各国の「産」・「官」・「学」の代表者からなる年1回の意見交換会である。トラック1.5(半官半民)の立場から、東アジア地域統合の動きに対して知的支援を提供している。今次ソウル大会は、その第7回目となったが、そもそもこのEAFが、金大中韓国大統領の発案でスタートしたという経緯もあって、EAFがいかなる「原点回帰」を果たすのか、との期待をもって会議に臨んだ。

とはいえ、その反面、ここ2・3年をふりかえってみれば、EAFの「停滞ぶり」が関係各方面から指摘されていたことも事実である。すなわち、「産」・「官」・「学」の代表者からなる意見交換会とはいっても、とくに「産」の関心の低さが目立っており、また、「年1回の意見交換会」というだけで、そのフォロー・アップはなく、その成果が具体的な政策提言に結実しない、などといった諸点である。今回、主催国であった韓国も、そのような問題意識を踏まえてか、今次大会の総合テーマの一つとして「EAFの再活性化」を掲げ、さらに事前にそのテーマに関する「コンセプト・ペーパー」を関係諸国に配布するなど、それなりの意気込みが感じられたことは事実である。

その観点からみた場合、今次大会のプログラムは、しかしながら、首をかしげるような構成であった。つまり、冒頭の「本会議セッション1」と最後の「本会議セッション2」をのぞき、「産」「官」「学」が一堂に会することはなく、具体的な議論が展開される場となるはずの3つの分科会(政府・産業界・学界)は、同時並行で別々の部屋で開催されるという会議構成となったからである。これでは、「産」・「官」・「学」の代表者が入り交じって東アジア地域統合の将来を縦横に語るというEAF本来の趣旨が「構造的」に阻止されることになる。この点に関する主催国側の意図は明らかではないが、結果として、分科会の「縦割りの弊害」が顕著にみてとれることとなった。

もっとも、各分科会の議論をみていると、いずれも前向きな内容で、さまざまな具体的な提案もなされており、この「縦割りの弊害」さえクリアできれば、EAFの活路は見いだせるのではないか、とも思われた。「産」「官」「学」をつなぐ原点に帰って、本格的な制度再設計が期待される。そのさい、今後EAFに対する「産」の関心をいかに高めるか、

通年でのEAFのなんらかの活動の制度化、さらには政策提言の可能性など、「EAFの再活性化」のためには具体的なハードルがいくつかある。我が国をはじめ関係各国にはそのための知的貢献が求められているといえよう。

## 2. 進藤榮一団員

東アジア共同体構築の歩みが、いわば第2段階に入った。そして着実に歴史を書き換え 始めている。それが、今回のEAFの会合に出席参加して手にした結論的な所感である。

これまで、私たちの東アジア共同体評議会でも、特にその財政資金面から、東アジア共同体が十分な実現可能性や歴史有意性を持たないのではないかといった懐疑論が交わされ続けてきたけれども、今回3日間の会議に出席参加して、その手の懐疑論はいわば杞憂に過ぎないという想いを持たざるを得なかった。東アジア地域統合は、たとえ歩みは遅くとも、着実に前進している。その想いが、会議出席者の多くに共有されていたのではなかったろうか。それが第一に強調したい点である。

ではいったい、なぜ何が地域統合の歩み前進させているのか。今年のEAFにおけるスピーチや発言のキーワードは、「危機は機会をつくる」という点にあった。昨年のラオスのEAFの報告冒頭に小生も同じことを強調した(第6回「東アジア・フォーラム」報告書、22頁参照)。いみじくも今回のEAFの基調報告にあって、報告者のほぼ全員が、このことを強調し、世界金融危機の今日こそ、東アジア共同体が現実の制度化を進める好機をつくり出していると分析し、共同体構築に向けたいっそうの協力を呼びかけていた。その事実に深い感銘を受けたことを、第二に強調したい。アジア通貨危機からほぼ十年、危機が再び、地域統合への協力と制度化への機会をつくり始めている(たまさか、鳩山首相のニューヨークでのアジア共同体構築に向けた一連の発言は、まさにこうした文脈の中に位置付けられようか)。

第三に強調したいのは、今回の会議で、韓国の明確なプレゼンスが際立っていたことである。会議開催国として当然の意気込みであったともいえる。EAFは、韓国側(金大中・元大統領)のイニシアチブで開催された歴史的事情から、当然の経緯ともいえよう。にもかかわらず、従来までのコリアン・プレゼンスの希薄さに比較して、共同体構築への強い政治的意思の表明(韓国・外交通商部副長官の記念講演)には、注目すべきものがある。併せて、カントリー調整機関としての韓国側スタッフに、十二分に評価されるべきものがあった。その意味でも、従来、ASEANが、共同体構築の運転席に座っていると比喩されてきたのとは逆に、+3が、むしろ運転席につき始めたとすら、思えた。その意味で、たまさか08年12月九州大宰府で行われた第1回日中韓サミットは、+3が主導する、東アジア共同体構築の第二段階に入った歴史の前兆であったともいえようか。

第四に強調したいのは、東アジア共同体構想をめぐる、いわゆる「ASEAN+3」か「ASEAN+6」かの議論が、どうやら現実の制度構築の過程で、後者が後景に退き、

いまや前者が、主軸としにせり上がり続けている現実である。いみじくも、過去7年間にわたる、EAFの「トラック2」外交の成果が、この差をつくり出したといえよう。その意味で、NEAT外交活動の一端を担い続けてきた、我がCEACの地道な活動が、歴史に一定の意味を付与し続けているといえよう。

第六に強調したいのは、今回NEATとEAFが連続開催された点を高く評価したいと思う。実はこの点も、昨年のラオス会議で、小生が発言強調した点なのだが、両者の連続開催の原則は、費用や参加度の双方から、今後もぜひ堅持すべき原則だと思う。特に、シンクタンク、研究者中心のNEATのあと、EAFで、官界や産業界からの参加者を交えた意見交換や交流ができることは、類ない利点である。併せて、(昨年ラオスEAF会議報告で指摘したことでもあるのだが)会議が、会議主催国の首都で行われたことも、今後継続されるべき原則にすべきだと思う。NEATにせよEAFにせよ、たとえばバリやルアンプラバーン、あるいは慶州のような観光地などで開催されるのと違って、首都開催の場合、たとえ限られた時間とはいえ、現地の政府関係者やシンクタンク、報道機関との接触が物理的に可能だからである。その点でもまた、今回の会議成功の一因であったように思う。

とはいえ、いくつかの留意点を記さなくてはならない。以下、思いつくままに記す。まず、官界や産業界からの参加者と学界側参加者との意見交換の機会が、もっとあってしかるべきこと。また、産業界の参加者については、たとえば経団連とか経済同友会の指導中堅クラスの出席の可能性を探求すべきこと。また、会議報告文書は、できるだけ会議開催以前に、各国参加者に事前配布されてしかるべきこと。そして何よりも、毎回、小生が強調しているのだが、プレスへの開放が全く欠落していること。いわゆるパブリック・ディプロマシーは、トラック2外交にこそ、求められていることを留意しなくてはならない。そして最後に、これらせっかくのすぐれた政策提言が、どのような形で、各国の政府関係機関に伝達され、現実の政策につなげられるのか、その政策連関図うい、いま少し明確にすべきこと。

最後に、韓国側の会議開催のご尽力に心から感謝したい。私自身、EAFで、韓国側に対し、韓国側参加者を、東南アジア専門家だけでなく、もっと幅を広げるべきだとの注文をつけさせていただいたが、そうした注文はあれ、韓国側の尽力を高く評価したい。歴史は確実に、東アジア共同体構築へと向かい続け、その歩みが第二段階に入っている現実を、実感させられたことを改めて強調し、本報告に代えさせていただきます。

## 3. 廣野良吉団員

EAFは、今回便宜上か他の理由により、NEAT総会の翌日ソウルで開催された。今回のEAF会合の主題はEAFの活性化であったが、この会合の目的は、経済的に重要となってきたAPT諸国が、今後の経済・政治・文化・安全保障等の面で域内協力を強化し、

対外的な発信力を高めていく必要性と緊急性を再確認することにあった。APT諸国から 産官学の代表が参加することが期待されたが、多くの加盟国からは外務省関係者が参加し たのみであり、マレーシアのように、ソウル駐在大使が出席した国もあり、各国政府がど の程度EAFの機能・活動に期待しているかは定かでないと見受けられた。

しかし、上述したように、日中韓三国がアセアン諸国の主導の下で東アジア協力を推進する意欲をもっていること、さらに米国のオバマ政権もアジア諸国の平和と安定と持続可能な発展が世界の平和、貧困削減、地球環境保全へ強力な支えとなること再認識していることは明確である。そこで、中長期的には、豪州、ニュージーランド、インドを包含した東アジア首脳会議、北中南米諸国をも包含したアジア太平洋経済協力会議等との連携の下に、東アジア共同体の構築に向けて、一歩を踏み出そうという国際的・地域的環境が今後従来以上の速度で整備されていくことが予想される。EAFがAPTとの連携を強化して、アセアン諸国の2015年に向けたアセアン経済共同体、社会文化(環境を含む)共同体、安全保障共同体の構築に協力しつつ、アジア諸国の念願である東アジア共同体の形成へ一助となることを期対したい。

## 4. 矢野卓也団員

小職は、2009年9月1日から2日までソウルで開催されたEAF第7回大会に出席する機会を得たが、以下、その所感を述べたい。

今回のEAFでとくに印象的であったのは、EAFに対する「産」の関心の低さであった。初日の歓迎夕食会では、「産」のテーブルで代理出席がめだったのをはじめ、翌2日の大会では、日本以外の参加国の議論に迫力が感じられなかった。

2日、同時並行で開催された3つの分科会のうち、小職が参加した分科会2(産業)では、「グローバル金融危機と東アジア経済協力の深化」と「EAFの再活性化」を議題とし、冒頭、我が国の産業界を代表する班目哲司日本郵船渉外グループ長の他、ミャンマー、ラオス、韓国の代表から基調報告が行われた。結論として、この分科会は、日本がいい意味で議論を終始リードしたといえる。というのも班目氏が唯一、一般企業を代表する参加者であったのに対し、その他の参加国(全11カ国)からは、おおむね経済関連団体や関連省庁の役人が出席(代理出席含む)しており、その議論の迫力に歴然とした差があったからだ。ミャンマー、ラオス、韓国の基調報告が各国事情を縷々述べた上で、申し訳程度に東アジアの地域秩序への言及をするといった内容であったのに対し、班目氏のご報告は、実務家らしく緻密なデータに裏付けられた上、かつ産業界から見た東アジアの地域秩序の展望を語る視野の広いものであり、当然のことながら、このセッションの議論の基調を作ったのはこの班目報告であった。

昼食をはさんで、午後に引き続き開催されたこの分科会では、その後に行われる「本会議セッション2」での分科会別報告のため、議論の総括が行われたが、昼食時間にEAF

韓国事務局が作成した午前中の議論の概要メモでは、「東アジア域内の需要増加の必要性」、「環境への配慮」などといった内容に加え、「東アジア経済と世界経済の分離」という「ブロック経済」を彷彿させるような表現が加えられていたため、班目団員が抗議し、「東アジア経済と世界経済の協調」といった論旨に改められた。結果として、この分科会の報告はバランス良く妥当な線で取りまとめられたかたちとなった。

このように日本のプレゼンスが終始目立ったかたちとなった「産」の分科会であるが、これは裏返せば他の国の「産」の関心の低下を示すものである。今後、いかに各国のEAFに対する「産」の関心を高めるかを積極的に検討する必要があると考えられる。



# 東アジア共同体評議会

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-12-1301 [Tel] 03-3584-2193 [Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.ceac.jp [Email] ceac@ceac.jp